

## 因習・迷信について

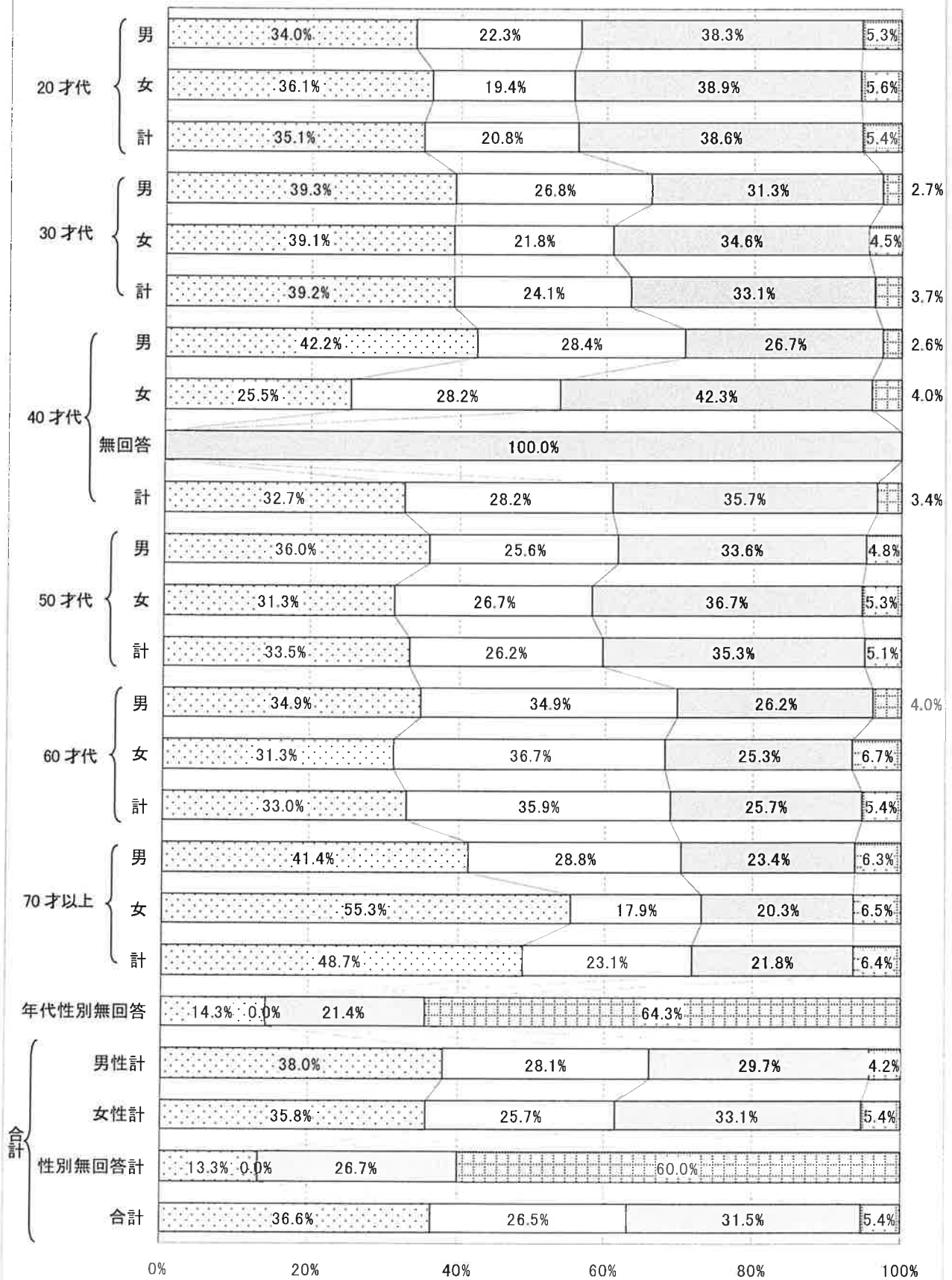
**質問4** あなたは、結婚式は大安の日に行うとか、葬式は友引に出さないとか、清め塩などの因習や迷信をどう思いますか。(1つ)

- 1 昔からの言い伝えやしきたりを守るのは当然のことと思う。
- 2 おかしいと思うが周りと同じようにしている。
- 3 因習や迷信に惑わされないで、間違っていることは改めたい。

主に冠婚葬祭を行うにあたって「大安」「仏滅」「友引」など「六曜」により日の良し悪しを判断する習慣が残っている。この質問では、因習的要素が最も顕著に見られる「冠婚葬祭の日柄(六曜)」に対する意識を問うている。

		1. しきたりを守るのは当然		2. 周りと同じようにしている		3. 間違っていることは改めたい		無回答		合計
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
20才代	男	32	34.0%	21	22.3%	36	38.3%	5	5.3%	94
	女	39	36.1%	21	19.4%	42	38.9%	6	5.6%	108
	計	71	35.1%	42	20.8%	78	38.6%	11	5.4%	202
30才代	男	44	39.3%	30	26.8%	35	31.3%	3	2.7%	112
	女	52	39.1%	29	21.8%	46	34.6%	6	4.5%	133
	計	96	39.2%	59	24.1%	81	33.1%	9	3.7%	245
40才代	男	49	42.2%	33	28.4%	31	26.7%	3	2.6%	116
	女	38	25.5%	42	28.2%	63	42.3%	6	4.0%	149
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1
	計	87	32.7%	75	28.2%	95	35.7%	9	3.4%	266
50才代	男	45	36.0%	32	25.6%	42	33.6%	6	4.8%	125
	女	47	31.3%	40	26.7%	55	36.7%	8	5.3%	150
	計	92	33.5%	72	26.2%	97	35.3%	14	5.1%	275
60才代	男	44	34.9%	44	34.9%	33	26.2%	5	4.0%	126
	女	47	31.3%	55	36.7%	38	25.3%	10	6.7%	150
	計	91	33.0%	99	35.9%	71	25.7%	15	5.4%	276
70才以上	男	46	41.4%	32	28.8%	26	23.4%	7	6.3%	111
	女	68	55.3%	22	17.9%	25	20.3%	8	6.5%	123
	計	114	48.7%	54	23.1%	51	21.8%	15	6.4%	234
年代性別無回答		2	14.3%	0	0.0%	3	21.4%	9	64.3%	14
合計	男性計	260	38.0%	192	28.1%	203	29.7%	29	4.2%	684
	女性計	291	35.8%	209	25.7%	269	33.1%	44	5.4%	813
	性別無回答計	2	13.3%	0	0.0%	4	26.7%	9	60.0%	15
	合計	553	36.6%	401	26.5%	476	31.5%	82	5.4%	1,512

□1. しきたりを守るのは当然 □2. 周りと同じようにしている □3. 間違っていることは改めたい □無回答



### <分析>

- 全体では、「当然（積極的肯定派）」36.6%と「周りと同じようにしている（容認派）」26.5%の合計が63.1%で、「改めたい（否定派）」31.5%の約2倍になっている。
- 年代別でみると、「当然」は70才以上が48.7%で最も高い。次に、30才代39.2%、20才代35.1%が続く。「改めたい」は、「当然」が1/3以上ではあるが、20才代の38.6%が最も高く、概ね年代が上がるにしたがって低くなる傾向にある。
- 男女別では、大きな差は見られないが、「当然」、「周りと同じようにしている」は男性の方が、「改めたい」は女性の方が、それぞれ若干高くなっている。男性の方がやや保守的な傾向があると言える。
- 年代男女別でみると、40才代の男女差が他の年代に比べて極めて大きい。「当然」は男性の方が16.7ポイント高く、「改めたい」は女性の方が15.6ポイント高い。また「当然」と「周りと同じようにしている」の合計は、女性は53.7%で年代男女中最も低い、男性は70.6%で、70才以上女性の73.2%に次いで高い。  
また、70才以上をみると、「当然」と「周りと同じようにしている」の合計が、男女とも7割以上と高い。特に女性は「当然」が55.3%で、男性を約14ポイント上回っている。「周りと同じようにしている」は、男性が28.8%で、女性を約11ポイント上回っている。

## 【質問4（因習・迷信）と、質問5-1（身元調査〔結婚〕）との関連】

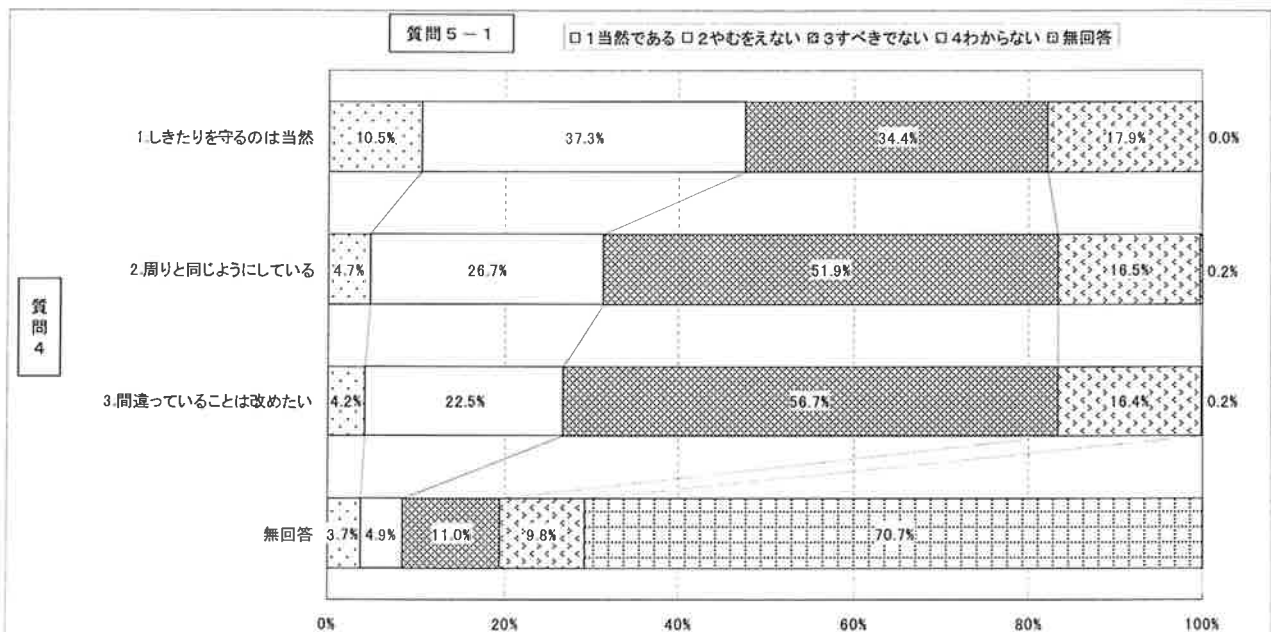
[質問5-1の内容]

結婚のとき、家柄・財産、家族の仕事や地位などの身元調査することを、あなたはどう思いますか。

1. 当然である。
2. やむをえない。
3. すべきでない。
4. わからない。

このクロス集計では、身元調査の是非について、因習や迷信に対する考え方の違いによる意識や態度の傾向をみた。

質問4 \ 質問5-1	1 当然である		2 やむをえない		3 すべきでない		4 わからない		無回答		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
1. しきたりを守るのは当然	58	10.5%	206	37.3%	190	34.4%	99	17.9%	0	0.0%	553
2. 周りと同じようにしている	19	4.7%	107	26.7%	208	51.9%	66	16.5%	1	0.2%	401
3. 間違っていることは改めたい	20	4.2%	107	22.5%	270	56.7%	78	16.4%	1	0.2%	476
無回答	3	3.7%	4	4.9%	9	11.0%	8	9.8%	58	70.7%	82
											1,512



### <分析>

○ 因習や迷信を、「間違っていることは改めたい」とする否定派は、身元調査についても「すべきでない」と否定する割合が最も高く 56.7%である。「しきたりを守るのは当然」とする肯定派の 34.4%とは 22.3 ポイントの差がある。

また、「しきたりを守るのは当然」とする人は、身元調査について「当然である」と「やむをえない」の合計が 47.8%と、5割近くが肯定、容認している。

六曜に縛られた生活態度と身元調査の慣行は、ともに世間体という社会的差別意識として支え合っているといえる。

## 【質問4（因習・迷信）と、質問6－1（研修会等への参加回数）との関連】

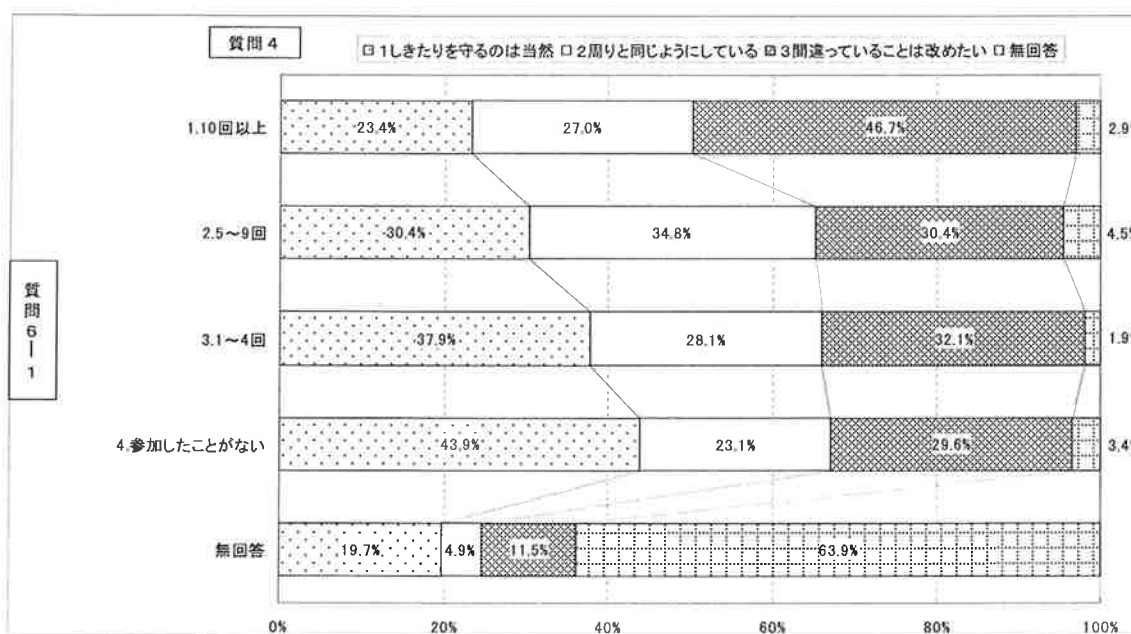
[質問6－1の内容]

あなたは過去5年間に、人権・同和教育の講演会や研修会に参加されたことがありますか。

1. 10回以上参加した。
2. 5～9回参加した。
3. 1～4回参加した。
4. 参加したことがない。

このクロス集計では、因習や迷信に対する意識について、研修会等への参加回数の違いによる意識や考え方の変容をみた。

質問6－1 \ 質問4	1しきたりを守るのは当然		2周りと同じようにしている		3間違っていることは改めたい		無回答		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
1. 10回以上	32	23.4%	37	27.0%	64	46.7%	4	2.9%	137
2. 5～9回	75	30.4%	86	34.8%	75	30.4%	11	4.5%	247
3. 1～4回	217	37.9%	161	28.1%	184	32.1%	11	1.9%	573
4. 参加したことがない	217	43.9%	114	23.1%	146	29.6%	17	3.4%	494
無回答	12	19.7%	3	4.9%	7	11.5%	39	63.9%	61
									1,512



### <分析>

- 研修会等への参加回数が10回以上になると、六曜などに対する意識、認識の変容が読み取れる。因習や迷信について、「間違っていることは改めたい」とする回答をみると、研修会等に「参加したことがない」では29.6%だが、「10回以上」では46.7%と高くなる。一方、「しきたりを守るのは当然」とする回答をみると、「参加したことがない」では43.9%だが、「10回以上」では23.4%と低くなる。

## 【考察】

◎ 旧赤碕町調査〔平成14年（2002年）実施〕と比べると、「六曜」に対する住民の意識、認識にあまり変化は見られず、冠婚葬祭への因習的態度は依然として強いといえる。高齢世代だけでなく、若い世代でも「六曜への配慮」を肯定する意識が強く、保守的な思考に回帰している傾向にあるのではないかと考えられる。

しかし、研修会等への参加回数が増えるにしたがって、「間違っていることは改めたい」とする割合が高くなることから、科学的、合理的な考え方を身につけることは人権教育で育てるべき大切な資質・能力であり、正しい認識や行動の変容には、学習の積み重ねが重要であることがわかる。